

上野ファーム

北海道ガーデンの神髄

「上野ファーム」の緑と花は、共に自然で丁寧に演出されており、「北海道ガーデン」として知られるようになったものの先駆的なモデルとなっています。『パープルウォーク』、『白樺の小道』、『サークルボーダー』、『ミラーボーダー』などのセクションは、英国のカントリーガーデン様式で造られています。

上野ファームは、家族経営で 1906 年に稲作を始めました。その後、現在の農場長である上野砂由紀さんは、2000 年代にイギリスでガーデニングを学びました。帰国後、上野さんは自分バージョンのイングリッシュガーデンの造園を始めました。農場にお米を買いに来る地元住民のためのオアシスを作りたいかったのです。彼女が北海道の過酷な環境で育つように多年生の花の栽培に成功したので、ガーデンの評判はコミュニティをはるかに超えて広がりました。

一家はガーデンがビジネスになることに気づき、2001 年に改造を完了しました。牛小屋がガーデンのエントランスとショップになり、古い貯蔵庫の巨大なドアの後ろと高い天井の下には現在『NAYAcave』があります。カフェの外にはアウトドア用のたくさんのベンチ、テーブルと椅子などの柔らかくて頑丈な家具があります。

テラス、花々と木々

丘の周りの段々になった水田の土壌はすでに肥沃でした。水田自体が仕切られていたため、丘の周りに広がる庭園の自然な段を作りだしました。このような古い土壌の境界線は柔らかく自然な境界線を形成し、来園者に庭園の中での変動と微妙なバリエーションの印象を与えます。

上野ファームは、上野さんのオリジナルデザインの 1 つの鍵である花でいっぱいです。多くの木、特に北日本で一般的なシラカンバの一種である松や白樺もあります。池の近くには『木の声が聞こえる庭』があります。そこにある 1 本の黒いポプラの木の葉が風に揺れると、独特の音がするそうです。

射的山

『射的山』と呼ばれる丘の上にある虹色の椅子は、農場のシンボルになっています。丘の頂上にはかつて射的の訓練場所でした。もう 1 つの有名スポットは、小さなノームサイズの石造りの小屋が周囲の池に映ることで簡単に認識される『ノームの庭』です。ノームは庭仕事をするために、真夜中過ぎに姿を見せると言われています。

庭の別の場所にある苗床の後ろには、上野家が鶏を飼っている小さな小屋があります。鶏たちは時々抜け出しては庭をさまよいます。

北海道ガーデンのコンセプト

2004 年、上野さんは日本の園芸雑誌『Bises』のガーデンデザインのコンテストで優勝しました。彼女は最終的に 2008 年に放映されたテレビドラマ「風のガーデン」のヘッドガーデンデザイナーになりました。上野さんは「北海道ガーデン」という言葉を発明したとされています。彼女は、北海道の環境、気候、文化、歴史的背景の特異な組み合わせが、北海道ガーデンを他の場所のガーデンと区別させると信じて、このコンセプトを開発しました。

2009 年、上野さんは北海道ガーデン街道を形成する中心人物の一人にもなりました。これは、北海道ガーデンというコンセプトの発展の実現のための重要なステップでした。

いつ訪問するか

上野ファームは、4 月下旬から 10 月中旬までの日中は月曜日を除き毎日営業しています。上野ファームでできることは、こちらのリンク[[What to Do ページへのリンク](#)]から飛んでください。